

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	古本 佳代	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(健康科学)	
学位授与番号	甲第127号	
学位授与日付	平成26年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	イヌの飼養が飼養者の健康に及ぼす影響	
審査委員	教授 小野寺 昇	教授 宮川 健
	教授 古川 直裕	教授 小林 春男

博士論文内容の要旨

我が国におけるイヌの飼養と飼養者の健康の関連性を明らかにすることを目的とする研究である。博士論文は、5つの章から成り、次の様な構成であった。第1章 序論(研究の目的、倫理的配慮)、第2章(ペットの飼養と飼養者の健康の関連性の研究)、第3章(イヌとの共同身体活動が飼養者に及ぼす影響に関する研究)、第4章(総合討論)、第5章(結語)。以上の研究から7つの知見が明らかになった。①ペットの種類に関わらず、ペットの存在や飼養に伴う生活の変化は男性飼養者の精神的健康に正の効果をもたらす。②男性飼養者において、イヌの飼養は身体的活動の増加や社会的交流を促進する。③肥満の者や中年期、高年期の者は身体活動量の増加を期待し、イヌの散歩を実施している。④イヌの飼養者は飼養に対する意識は高いが、イヌの肥満を過小評価する傾向がある。⑤イヌ散歩を実施し、運動量が増えたと主観的に評価している飼養者は、変わらないと評価している飼養者より男女共に1日あたり1,400歩、身体活動量が増加している。⑥イヌの散歩は人のみの普通歩行より歩行率が低くなる。⑦イヌの散歩の15分間実施は1,000歩の身体活動量増加に寄与する。これらの新しい知見からイヌの飼養は飼養者の身体的健康および精神的健康を促進させることが明らかになった。

博士論文審査結果の要旨

本論文は、我が国におけるイヌの飼養と飼養者の健康の関連性を明らかにすることを目的とした研究であり、健康科学専攻の学位論文に相応しい内容の論文である。7つの研究(3つの調査と4つの実験)から構成され、目的を達成するための構成として適切な質と量を備えていた。研究の背景、仮説の設定など研究の目的が明確であった。アンケートの数量、分析方法、統計の処理など妥当な方法論を用いた。動物から無侵襲で心電図を導出する新しい方法論を作成した。調査と実験から導き出された結果は、客観的な数値として図表化され、先行研究に基づく考察を統計的な有意性から展開した。特に結果の客観性を担保する新しい方法論の信頼性について先行研究との整合性から考察を展開した。イヌの飼養と飼養者の健康の関連性という健康科学における新しい分野を開拓する論文である。